

活動の地域移行に関するアンケート 集約結果

アンケートの集約結果（別紙）

- 1 地域移行を知っていたか？ 2 賛成か反対かの受け止め 3 解決すべき課題（選択）
4 休日の部活動 指導希望の有無 5 地域移行するにあたっての要望 6 部活動の問題のうち、

2 賛成・反対の理由（自由記述）

○「賛成」の理由

- ① 本来行うべき業務に支障が出ている（197名）
- ② 休日に休めないことが負担だった（191名）
- ③ 地域の子どもたちは地域との連携で育てるべき（27名）
- ④ 専門性のある指導者に教えてもらえる（25名）
- ⑤ 練習試合等の調整の負担が大きかった（19名）
- ⑥ 休日の手当てが実態に合っていない（4名）
- ⑦ その他 ・教員に選択権があつていい など

○「反対」「わからない」の理由

- ① 教育的な指導ができる地域指導者が見つかるか不安（29名）
- ② 学校での指導と休日の指導との不一致が心配（24名）
- ③ 休日に起きた問題を中学校が処理することになる不安（18名）
- ④ 実現できるとは思えない（16名）
- ⑤ 休日の部活動指導をしたい（15名）
- ⑥ 検討が不十分（15名）
- ⑦ 生徒指導上、休日の部活動も中学校に残すべき（14名）
- ⑧ その他
・文化部はどうなる？ ・地域クラブのほうが活発な競技もある など

5 部活動の地域移行に関する要望（自由記述）

- ① 一日も早く、休日の部活動の地域移行を実現してほしい（109名）
- ② 早く体制整備（大会の在り方の検討や指導者の任用等）してほしい（58名）
- ③ 予算を確保して休日（平日の分も含めて）の手当ての充実を（52名）
- ④ 平日も含めた地域移行を実現してほしい（48名）
- ⑤ 専門性のある地域指導者の任命を（44名）
- ⑥ 教員が地域指導者になることを強要（評価等で）しないように（33名）
- ⑦ 教員増により、複数顧問確保などの負担軽減を（23名）
- ⑧ 地域による格差が出ないようにしてほしい（14名）
- ⑨ 現場（学校や生徒・保護者）に周知を徹底してほしい（10名）
- ⑩ 全国大会をなくすべき（7名）
- ⑪ 法律を守り、勤務時間内での部活動実施に（4名）
- ⑫ 中体連役員としての大会運営の負担をなくしてほしい（2名）
- ⑬ その他 ・休日部活を残してほしい ・現場に丸投げしないで など

(具体の記述)

- ・新規採用です。この一年だけでも周りの教員の様子を見て、土日の部活動はもちろんのこと、それ以外にも改善できる部分がたくさんあると思う。(中略)形式的な業務の排除や働き方改革、待遇の改善がなければ今後も人材は減り続けると思う。学校単位では動けない分、国や県教委の対応に期待したい。生徒のためにも今の時代に合った体制を作してほしい。
- ・必ず実施して、教員の働かせ放題の状況を何とかしてほしい。教員も人間。休養が必要だし、家族との団らんの時間もほしい。我が家は2人の子どもが不登校になり、一人は引きこもりである。休日、部活で疲れて帰宅するので、子どもたちに十分な対応ができなくて辛かった。
- ・よかった。この方針が打ち出されたお陰で、教員をもう少しは続けてもいいかなと思えた。ただ、境界線をはっきりしておかないと、結局教員が出勤することになってしまうと思う。例えば、休日の指導は完全に外部指導者が行うこととして、希望しない教員は絶対に関わらないこととするなど。ただ、大会引率は教員となると負担は減らない。(中略)その線引きを学校に委ねるのもやめてほしい。
- ・地域移行は第一歩とし、教員が余裕をもって本来の業務に当たれる環境を整備してほしい。現状ではすでに崩壊している現場を、一部の優秀な教員が心と身体をすり減らし、限りある人生の時間を投げ打って支えているだけ。異常で手遅れの状態である。全国で統一して17時には学校を閉めてほしい。長時間残業は違法である。公務員が違法状態で働くことはやめるべき。(中略)学校は17時に閉まることを前提に仕事を精選すべきである。
- ・平日の部活動も勤務時間外に行っているが、それを当然のこととしてよいのか。保護者や生徒の要望や周りとの兼ね合いもあり、勤務時間内に終わらせることはできない。部活動を終えた後によろやく机で仕事。すぐに19時、20時になる。働き方改革と言われているが、休日だけ地域移行すればよいのか。教員を目指す人が減っている理由の一因として、時間外労働がある。時間外が80時間を超えなければいいという考えを改めるべき。
- ・若い頃に部活動をやり過ぎ、家族を含めたライフプランが狂った。土曜日に部活動をして、時間外労働を安い手当で行うことの異常さに気付いた。時給にすると900円(仙台市は1200円)(しかも移動のための費用はなし)では貴重な土日に働けない。
- ・休日に家族の介護もできないのはおかしい。
- ・平日に教員が勤務時間を超えて部活指導をする場合、それに見合った保障や給与の引き上げ等をしてほしい。
- ・教員は疲弊している。部活動は勤務時間内の活動に限定し、希望しない教員には担当させないようにすべき。
- ・教員にも家庭があり家族がいる。労働時間の適正な管理をしていただきたい。
- ・中体連の大会参加が学校毎か地域毎か、引率はだれがするのか、上位大会をどうするのかの検討も必要。
- ・大会の在り方や中体連の組織も改革することが必要。教員は大会運営からも教員としては退かなければ意味がない。
- ・違法な状況を長年放置してきた国や県、地教委の責任は大きい。部活動自体を学校から切り離すべき時期に来ている。
- ・「休日の地域指導者になる教員がいい教員」のような風潮にしないで、したい教員、したくない教員を対等に扱ってほしい。勤務評価の対象にしないで。
- ・休日も含め、部活動指導を望まない教員が権利を主張しやすくしてほしい。
- ・強制や体罰のない地域指導者を根気強く育成してほしい。地域指導者が見つからないからと現状が続くことがないようにしてほしい。
- ・教員も学校の枠を外して自分のやりたい競技(地域)が選べる体制を。
- ・地域に競技の指導が可能な方はいる。体育協会と連携し、そのデータベースづくりを。

- ・教員にも優秀な指導者はたくさんいるため、教員が参加できる制度にしてほしい。その際は、地域の指導者と同じ金額の報酬を受け取れるようにしてほしい。
- ・休日の地域指導員には、「学業優先」「体罰禁止」など学校の方針を徹底させてほしい。
- ・休日も、ただ強くなるためだけの部活動でなく、つながりが生まれる部活動にしてほしい。
- ・吹奏楽部の実情にも目を向けてほしい。土日もなく自分の時間を持ってないまま、人生を投げ打って音楽に没頭してきた教員もたくさんいる。文化部活動にも同様の措置を。
- ・指導者と学校との関係、大会運営や引率についてなどガイドラインをしっかり作ってほしい。
- ・学校毎に進めるのではなく、全国で進め方をマニュアル化するなどすべての学校が同一歩調で進められるようにしてほしい。

6 部活動の指導をしていて問題だと感じること（自由記述）

- ① 専門外（経験がない）の部活（競技）の顧問をさせられることによる負担（125名）
- ② 休日に休むことができない（114名）
- ③ 平日の部活が勤務時間を超えて行われ、時間外労働が常態化している（109名）
- ④ 心身の負担が大きい（47名）
- ⑤ 保護者からの要求やクレームへの対応の負担（34名）
- ⑥ 保護者の熱心さと子どものやる気のギャップが大きい（24名）
- ⑦ 中体連役員の負担（大会運営など）が大きい（17名）
- ⑧ 部活（顧問）により、活動に温度差がある（13名）
- ⑨ 全員加入制が残る学校がある（12名）
- ⑩ 勝利至上主義になり、本来の意義を忘れている（10名）
- ⑪ 部活運営で出費が多く自腹を切ることがある（10名）
- ⑫ 部活動顧問を拒否できない（8名）
- ⑬ 休日の手当が低すぎる（6名）
- ⑭ 全国大会や上位大会の縮小が必要（5名）
- ⑮ 部活動に関するガイドラインが守られていない（5名）
- ⑯ 一人顧問でなく複数顧問に（1名）

（具体の記述）

- ・こちらも休日を犠牲にしてまで指導に当たっているのに、指導経験がないことや熱量の差を理由に他教員や保護者からどうこう言われるのは勘弁してほしい。それならば、部活動をすべての教員に割り当てるべきではない。
- ・専門外の部活動の顧問をしている教員は、競技の勉強や練習方法を一から調べて考えているため多大な負担になっている。
- ・専門外の部活動であっても、生徒や保護者の期待が大きくなり、その期待に応えられなければ関係が悪くなることもある。それが時間外・休日労働につながる。・経験のない部活動の指導を求められ、経験不足による保護者からのクレームは精神的にも辛い。大会上位入賞など、求められるものが大きい。
- ・親の会の存在、移動引率、休日の大会運営、大会に関わる平日の出張、専門外でも「わからない」と言えないこと、前任者との温度差、保護者と生徒の部活動への理解の乖離、生徒指導、スポ少との連携、予算執行事務など多数。
- ・部活は受け持っていないが、家族に教員がいると基本は土日とも子どもと一緒に過ごせるのは夜間だけ。年中行事や季節のイベントも持てない。部活があるだけで、教員の疲労はどんどんたまっていく。県や国から「教員は休日の部活指導にはかかわらない」という強い姿勢を出してほしい。

- ・練習試合や大会引率で、土日の両日とも部活動に時間を費やさなければならないシーズンがあること。スポ少のコーチが実質的に参加させたい大会を決めていること。
- ・中体連競技専門部としての活動で休みがなくなっている教員がいる。自分たちで首を絞めているとも言いきれない。また、選抜指導事業への参加が完全にボランティアになっている。
- ・吹奏楽の大会やコンクールの時間的拘束が長すぎる。その分、手当てが保障されるわけでない。
- ・生徒の兄弟の世代の部活動が土日・祝日もフル稼働していたらしく、保護者から「練習時間が短い」「足りない」「姉の時は〇〇だった」と指摘されることが多かった。部活動の在り方やルールが変わっていることをもっと周知させることが必要。
- ・大会では、引率・運営・監督に加えて審判員を行うのは業務過多。外部審判員の人員の確保と依頼するための予算の確保は必要。
- ・仙台市の野球部会では、全市大会の運営などがボランティアである。区委員長に運営を割り振られるが、GWの予定を自分で決められず、給料も出ないのに運営に当たることは我慢ならない。休日3時間は守られていない現状がある。練習試合などを3時間以内でやろうとすると、相手の顧問や保護者から白い目で見られる雰囲気がある。もっと周知徹底して、正しく運用されることを願っている。
- ・練習や大会の引率で、2週間以上の連続勤務になることがある。土日に部活動が入ると、自身や家族との時間が取れない。
- ・土日祝日に部活動をやらなければならず休めない。大会などは強制参加のため、県大会などがあると大変。平日も定時過ぎまで場活動時間が設定されており、帰りたいのに帰れない。
- ・競技により、土日の大会引率があり、早朝から遅くまで働いても振休もなく、慢性的疲労を抱えながら平日の業務をこなす心労と苦痛がある。
- ・テニス部の参加する大会が多すぎる。仙台市青葉区では例年、年間11の大会に参加する。拘束時間が長い。日曜開催の大会も多く、結局練習のため土曜日もつぶれる。
- ・月100時間を超える残業は違法だし、本来の業務に支障が出る。現場の教員の働き方は授業の優先度は一番低い。本来それは最優先の仕事。部活動がなくなっただけではすべては解決しないが、改善への足掛かりにはなるはず。
- ・勤務時間が16:45なのにもかかわらず、18:30まで部活動に拘束される仕組みは大問題。平日は15時まで授業。16時30分まで部活動とすべき。ガイドラインを破っている学校が多すぎる。
- ・平日に部活があると帰宅時間が遅くなる。教員の家庭での生活が考えられていない。
- ・コロナになって部活がなくなり、こんなにも精神的にも時間的にも余裕ができるものかと驚いた。生徒も部活がなくなって、自分の時間を楽しんでいるようだ。これ以上、部活動を教員主体で行う必要があるのか疑問。
- ・勤務時間内のみの部活にしてほしい。若い時休みがなかったのはつらかったが、これからの人に同じ思いをさせたくない。
- ・勤務時間が問題。部活があるために、30年勤務していて勤務時間内で退勤したことは何日あったのかと思うくらいである。しかも、半ば強制的に部活は担当させられてきた(断れない)。
- ・大会が、土日に設定されていること。連続勤務になると、心身に大きな負担になる。部活動の時間が勤務時間に収まっていないこと。法的にグレーだと考える。部活動であるのに、責任が大きすぎる。保護者の期待も、生徒の期待も大きいのに、教員のサービス残業で成り立っている。部活動の在り方そのものに問題を感じる。
- ・勝利至上主義が残っている点。練習しなければ勝てない→土日返上となってしまう。中学校の現場に部活動は必要か？現在、コロナのため、部活動を自粛しているが、何も問題がない。
- ・世間一般に、部活動はほぼボランティアだとあまり知られていないこと。
- ・生徒の多様な活動が増えている中での部活動への全員加入制は問題。本来、加入の意思と活動の意欲がある生徒が参加すべき。